

各位

金蘭千里中学校

## 本校入学者選抜試験問題に関するお願い

昨今、教育現場における著作権の在り方が議論されています。本校も、著作権法に基づいた著作物の適切な運用と管理に取り組んでいます。

本校の入試問題の利用につきましても、下記の点にご留意いただき、適切なご利用をお願いいたします。

### 記

1. 本入試問題の著作権は、本校に帰属します。複製の作成は、事前に申告いただいた場合のみ許諾します。

2. 本入試問題で引用している文学作品等の第三者の著作物は、関係団体を通じて、引用の許諾申請を行っています。

以上

# 令和3年度中学入試

## [前期A・E入試]

### 国語科問題

#### 注意事項

- 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- この問題冊子は、表紙を含めて20ページあります。  
試験中に、印刷が見づらかったり、ページの乱れや抜け落ちに気づいたりした場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。
- 解答用紙は別に配布されます。解答はすべてその解答用紙に記入しなさい。
- 問題冊子の余白等は下書きなどに利用してよろしいが、どのページも切り離してはいけません。

[前期A・E入試] 受験番号 \_\_\_\_\_

金蘭千里中学校

問題に字数制限のあるものは、すべて句読点も一字とする。

(1)

東京に住む高校二年生の美緒は不登校であつたが、母親とのけんかをきっかけに、岩手に住む染織物の工芸家である祖父の元へ家出した。そこで過ごすうちに工房の仕事が好きになり織物を教えてもらっている。本文は、東京の家へ帰るよう説得に来た両親と話をし、次の日に東京へ帰る両親を見送ったあの場面である。次の文章を読んで、後の問い合わせに答えなさい。

泣けばすむと思っている。いつも女を武器にして、父や祖父には甘える。そういうところがきらい。

母に言われた昨夜の言葉を思い出すと、頭がぼんやりする。

盛岡駅で両親を見送ったあと、祖父の家の二階に閉じこもり、美緒はベッドの上で身体を丸める。 目を閉じると、(注1)裕子が糸を掛けっていた機が心に浮かんだ。

昨夜は食事のあと、アトリエに来ないかと裕子に誘われた。

裕子はショウルームの近くにあるアパートに、個人的な作品を作るための機や資料を置いていた。そこは山崎工藝舎が社員寮に使っていた建物で、駐車場をはさんで向かいに建つ古い木造アパートも昔は寮だつたのだという。 その木造アパートの二階に(注2)太一は住んでおり、せつかく家を出たのに、実家にいた頃と変わらず、母にこき使われていると笑っていた。

裕子がそのアトリエで織っていたのは、羊本来の毛の色を活かしたシヨールだった。羊毛は白だけではなく、羊の種類や育つ場所によつて、灰色や茶色の毛もあるそうだ。

今、織つているのは明るい灰色で、銀灰色と呼ばれる色だ。

涸りのないその色に(注3)「おどる十二人のおひめさま」の絵本で見た、三つの森のうちの「銀の森」を思い出した。

裕子が少し布を織つていくと言つたので、隣に座つてその動作を見つめた。

足元のペダルを踏ふと、ゆるみなく張られた縦糸が上下に分かれる。その間に横糸用の糸が巻かれた(注4)杼を、

左から右へ裕子がすべらせていく。そうして掛け渡された横糸を、布の縁が曲がらぬように注意して、（注5）簇でそつと手前に打ち込む。それが終わると再びペダルを踏んで、今度は右から左へ杼を渡し、簇で打ち込む。

織細な羊毛の糸を扱う作業はすべて慎重で、簇を打ち込む音も静かだ。

規則正しく繰り返される機の響きに、気が付くと眠ってしまった。

翌朝、目覚めると、裕子の機に朝日が当たっていた。

機が織り手を待っているようだ。それを見たとき、自分も早く大きなものを織りたいと思った。

羊毛の仕事は不思議だ。布づくりのことを考えている間は、昨夜の母の言葉も束の間、頭から消えていた。

薄く目を開け、美緒は赤いショールに手を伸ばす。

昨夜の裕子の姿に祖母を思つた。

a セイゼンと並んだ縦糸に一筋ずつ横糸を渡し、やさしく簇で整える。顔も覚えていない祖母が慈しみのようにして

作つてくれたのが、このショールだ。

布に触れた指先から、ほのかなぬくもりが伝わってくる。

好きだ、という思いがこみあげてきた。

羊毛の仕事が好きだ。

それなのに母に何も言えなかつた。工房や見習いの仕事を悪く言われても、黙つてうつむいていただけだ。

職人になる覚悟はあるのかと母は聞いた。

覚悟：と考えながら、美緒はショールを頭からかぶる。

好きだけれど、そこまではまだ心が決まらない。

開け放した窓から風が入ってきた。日中は暑くとも、日が沈むとこの家は涼しい。

肌寒さを感じて、美緒は立ち上がつた。窓を閉めにいくと、外が明るい。

月の光が木立に落ち、森が白く輝いている。

ああ、と声が漏れた。

昨夜は「銀の森」の色を裕子の機で見た。今は目の前に「ダイヤモンドの森」の光がある。

月明かりのなかで、岩手山のシルエットがうつすらと見えた。その光景に「①水仙月の四日」の絵が心に浮かんだ。

赤い毛布をかぶり、吹雪のなかで遭遇した子ども。

その子の命を取れと命じられた雪童子は、わざとひどく突き倒し、赤い毛布でその子をくるむと、自分の雪で隠して守つてやる。

部屋のあかりをつけ、鏡の前に美緒は立つ。

赤いショールを頭に深くかぶつた自分が映つた。

たつぱりとした布の奥からのぞく目と、小さな身体。見るからに自信がなさそうな子どもを守るようにして、ショールは鮮烈な色を放つている。

頭からショールを外し、両肩に掛けてみた。右から下がった布を左肩へ折り上げてみる。

艶やかな赤い布が身に添い、優雅なひだが首のまわりを縁取つた。

②見たことのない自分の姿に驚き、美緒は一步前に出る。

ショールを肩にまとった自分は堂々としていた。背筋を伸ばすと顔が晴れやかになり、そんな自分の変化に力が湧いてくる。守られるのではなく、背中を押されているみたいだ。

これが色の力。いや、色と布の力だ。

布の織り目に美緒は目を凝らす。精緻な織りだ。布の端も驚くほど、( A ) 整っている。

今ならわかる。ずっと身近にあつたこの布が、どれほど高い技術で作られていたか。

赤がいい。強くそう思つた。

赤だ。

こみあげる思いに、美緒はさらに前に進んで鏡に触れる。

同じものを作ろうとしたら、どうなるだろう? こんなに力がある布を作れるだろうか。

今すぐ、作り始めたい衝動に突き動かされ、部屋を出た。

廊下に b イヨウな熱気がこもつていて。階段の下から祖父の足音がした。

「おじいちゃん! あとで部屋に行つてもいい?」

「今でもいいぞ。なんだ?」

「ショールの色、決めました。すぐに行くけど、ちょっと待つてで」

「どうした？」

「なんかね、廊下がすごく熱い」

魚が腐ったようなにおいがただよつてきた。廊下を歩きながらあちこちを見て、台所のドアを開けた。その途端、猛烈な熱気が顔を打つた。

叫んだつもりが声にならず、身体が固まつた。

「あつ、火……火」

コンロの鉄鍋から大きな炎が上がつていた。その炎は壁を這い、（B）天井に燃え移つた。

けたたましいベルの音が鳴り響いた。

カジデス、カジデス、と火災報知器の声がする。

「おじ、おじい……か、か、みず、み……」

流しに伏せてあつたボウルを手に取る。しかし炎の熱気が強くて、水道の蛇口に近づけない。ようやく蛇口をひねつたとき、祖父の声がした。

「水はやめろ、危ない、美緒、下がれ！」

駆け込んできた祖父が、思い切り美緒を後ろへ突き飛ばした。その勢いに尻餅をつく。

祖父の背が目の前に立つた。羽織つていた黒い着物を脱ぎ、祖父が炎へ向かつていく。

弾かれたように立ち上がり、消火器を取りに美緒は廊下へ飛び出す。両腕で抱えて台所に戻ると、祖父が咳き込みながら着物を鉄鍋に振り下ろしていった。しかし炎の勢いは強く、布に火が飛び移つた。

「おじいちゃん、下がつて！ 消火器！」

祖父の寝巻きの帶をつかみ、美緒はハイゴに引く。祖父が消火器に手を伸ばした。

「くれ！」

安全ピンを外し、美緒は炎に消火剤を放つ。

薬剤の勢いは激しく、瞬時に鍋の炎が消えた。すかさず前に踏み込み、ホースのノズルを壁と天井に向ける。

噴出

する薬剤の泡に押されるようにして、炎は消えた。

「消えた、消えたよ、おじいちゃん。すごいね、消防器」  
焦げた天井を見上げた祖父が顔を手で覆い、床に膝をついた。

美緒、とかすれた声がした。

「さがりなさい、危ないから」

「大丈夫、もう大丈夫だよ」

消防器の重さがずしりと腕にかかる。しかし、なるべく（　）持ち、美緒は残りの薬剤を天井に吹き付ける。

「おじいちゃん、……もう大丈夫だと思うけど」

床にうずくまつた祖父から、かすかな声が聞こえた。

「駄目だ……」

「何が駄目？」

祖父の声が聞き取れぬほど小さくなつた。

「私はもう……駄目かもしれない」

天ぷら油を火にかけたまま、祖父は父からの電話に出た。話をしながら、一階の染め場に降り、通話のあとはそこで作業をしていたそうだ。

鍋を火にかけていたというより、炊事をしようとしていたこと自体、忘れたのだと言つていた。

火事のことを裕子に連絡すると、すぐに太一が駆けつけてきた。遅れて裕子が来て、三人ですすだらけの天井と壁の  
d オウキユウシヨチをした。

天ぷら油の火災の場合は、水をかけると炎が飛び散り、大やけどをする可能性があるそうだ。もし水をかけていたらと思うと、震え上がつた。

ここ数年、祖父はもの忘れをするようになり、時折、生活に e シシヨウをきたしていたそうだ。

まったく気付かなかつたと言うと、美緒ちゃんにだけはきつと気付かれたくなかったのだと、裕子は寂しきに語つた。  
翌日の夜、③部屋から出てこない祖父のもとに、ローストチキンのホットサンドを運んだ。

丁寧に淹れたコーヒーと一緒に、祖父の書き物机にトレイを置く。

声をかけると、屏風の陰から祖父が出てきた。寝巻きにしている白い着物姿が仙人のようだ。

灰色の着物を羽織った祖父が書き物机に座り、何色のショールを作りたいのかとたずねた。

④赤、と答えようとして、ためらう。昨夜の炎の色が目にまだ残っている。

「また今度でいいよ。おじいちゃん」

「聞いておきたい」

食べ物に手を伸ばさず、祖父が静かに言つた。

「決めたのだろう。何色だ。色に託す願いは何だ？」

祖父の前に立ち、美緒は声を張る。

「赤です」

祖父が目を伏せた。⑤ひるむ気持ちを抑え、美緒は言葉を続ける。

「託す願いは『強くなりたい』」

「美緒は決して弱くはない」

「でも……」

⑥好きなものを好きと言える強さが欲しい――。

大きく息を吸つて姿勢を正し、美緒は祖父の目を見つめる。

「おじいちゃん、染めを教えてください。新しいショールはすべて、自分の手で作りたい」

「どうして染めもしたいんだ？」

「見てみたい……今の自分が、どこまでやれるのか」

祖父が目を閉じた。

「お前のお祖母さんも昔、まったく同じことを言つて、私のもとから去つていった」

わかつた、と絞り出すような声で祖父が答えた。

「やつてみなさい。ただし、お前は決して絶望するな」

三日後の朝、祖父と一緒に美緒は染め場に入つた。

薬剤の飛び散りに強いという真新しいエプロンを付け、美緒は祖父の隣に並ぶ。

祖父が隅に置かれた大釜に目をやつた。曾祖父の時代に使われていたが、昔ほどの注文がない今は出番がない釜だ。ゴム長靴を履き、祖父がコンクリートの土間に下りていった。

「私が染めの見習いを始めたとき、父が言つた。だいたい千回染めると感覚がつかめてくると。その通りだつた。千回とは、土曜も日曜も休まず朝晩染めて三年近く。週に五日なら四年、三日なら七年弱だ。染めに限らず、どの道も一人前になるには時間がかかる。美緒……」

染料の薬品が入つた戸棚の前に祖父が歩いていった。

「お前が千回の染めを迎える日まで、私は一緒にいてやれない。だから今、全力で教える」

「はい……先生」

祖父が怪訝そうな顔で振り返つた。

「ここにいるときは『先生』って呼びます」

⑦ そうか、と祖父が微笑んだが、すぐに表情を引き締めた。

「始めるぞ。色、音、匂い、熱、手の感覚、全部記憶に叩き込め。言葉だけじゃない。全身でつかみとるんだ」

汗取りの手ぬぐいを（D）額に結び、美緒はうなずく。

遠い昔、祖父もこうして曾祖父から染めを教わつたのだ。

木立の奥から蟬の声が響いてきた。

（伊吹有喜『雲を紡ぐ』より 一部改めたところがある）

（注1）裕子……祖父のいとこで、工房を継いでいる。

（注2）太一……裕子の息子で、工房の仕事を手伝いながら大学に通つている。

（注3）「おどる十二人のおひめさま」……グリム童話の題名。

（注4）杼……機織りで、縦糸の間に横糸を入れるための道具。

（注5）箴……機織りで、布の織り目を密にするための道具。

(一) 波線部 a ↗ e のカタカナを漢字に直しなさい。

a セイゼン      b イヨウ      c ハイゴ      d オウキュウショチ      e シシヨウ

(二) 傍線部 ① 「水仙月の四日」は宮沢賢治の作品であるが、次のア ↗ カの中から宮沢賢治の作品でないものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 銀河鉄道の夜      イ よだかの星      ウ セロ弾きのゴーシュ  
エ オツベルと象      オ ごんぎつね      カ 風の又三郎

(三) 本文中の ( A ) ↗ ( D ) に入る言葉を次のア ↗ エの中からそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。ただし、同じ記号を二度用いてはいけません。

ア 軽やかに      イ 固く      ウ まっすぐには      エ 一気に

(四) 傍線部 ② 「見たことのない自分の姿」とあるが、どんな姿なのかを説明した次の文の空欄 ( X ) ・ ( Y ) に入る言葉を、それぞれ本文中から十字以内で抜き出して答えなさい。

赤いショールを頭にかぶった美緒は、( X ) 姿だったが、このとき鏡に映っている美緒は、( Y )。

(五) 傍線部 ③ 「部屋から出てこない祖父」とあるが、このときの祖父の気持ちを説明した次の文の空欄 ( I ) ・

( II ) に入る言葉を、どちらにも「もの忘れ」という言葉を使ってそれぞれ二十五字以内で答えなさい。

祖父は ( I ) ことや ( II ) ことに深く傷ついている。

(六) 傍線部④「赤、と答えようとして、ためらう」とあるが、このときの美緒のことを説明したものとして最も適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 本当に自分が考えていることが正しいのかどうかがよく分からなくて、口に出せないでいる。  
イ すぐにでも祖父に伝えたいものの祖父に嫌われてしまいそうな気がして、口に出せないでいる。  
ウ 昨夜の火事のことを祖父に思い出させ改めて傷つけることになると思つて、口に出せないでいる。  
エ 今まで祖父の問いかけにはつきりと答えた経験がなく恥ずかしくなつて、口に出せないでいる。

(七) 傍線部⑤「ひるむ気持ちを抑え、美緒は言葉を続ける」とあるが、このときの美緒の気持ちを説明したものとして最も適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 祖父にどう思われるか心配で話を続けることがためらわれたが、思い切つて本心を伝えようと決意した。  
イ 祖父の様子を見ていて自分がまちがつていたことに気づいたが、意地を張つて引き下がらなかつた。  
ウ 祖父にしかれることは覚悟していたが、言わないわけにはいかないので仕方なく言うことにした。  
エ 祖父の機嫌がいつもより悪そうだったので別の日にしたかったが、あきらめて言うしかないと心に決めた。

(八) 傍線部⑥「好きなものを好きと言える強さが欲しい——」とあるが、「好きなものを好きと言え」なかつたことが具体的に書かれている連続した二文を本文中から探し、初めの六字を答えなさい。

(九) 傍線部⑦「そうか、と祖父が微笑んだが、すぐに表情を引き締めた」とあるが、このときの祖父の気持ちを、美緒の気持ちにも触れながら六十字以内で説明しなさい。

② 次の文章を読んで、後の問い合わせに答えなさい。

① カムイは（注1）アイヌのA精神世界を知る上で**aフカケツ**の言葉で、これがわからないとアイヌ文化は何もわからぬと言つても過言ではありません。よく「神」と訳されますが、「カミ」と「カムイ」はたしかにとてもよく似ています。カムイはもともと語源的にも日本語の「神」と同じ言葉だと思われますし、日々お祈りを捧げる存在だと言えば、カムイ＝「神」、よしわかった、ということになりそうです。

しかし、ちょっと待つてください。アイヌの伝統的な考え方では、表を歩いている犬や猫、庭にやつてくるスズメやカラスはみなカムイです。神様のお使いなどということではなくて、その一匹一匹がみんなカムイなのです。そればかりではありません。道端に立っている木も、その下に生えている草も、その間を飛び回っている虫たちも、基本的にはみんなカムイです。それどころか、家や舟や、鍋や茶碗などの食器類——つまり人間の作つたものもカムイですし、ガスコンロの火もカムイです。火を司る神様がいて、それが人間に火をもたらしたという意味ではありません。そこで燃えている炎、自体がカムイなのです。

カムイというのは、このように人間をとりまいているほぼすべてのものを指しています。こうした考え方を持つていふ人たちからすれば、テレビやパソコン、bレイゾウコや車などもカムイだということになるでしょう。こうなつてみると、カムイを「神」と訳すのは、ちょっと待つたということになりそうですね。1

ただし、もう少し限定すると、なんでもかんでもカムイというわけでもなくして、この世の中で何らかの活動をしていふと考へられ、人間にできないようなことをするもの、人間のために何らかの役に立つてくれてゐるもの、特にカムイと認めているということなのです。ですから、さすがに道端に落ちてゐる石ころまでもカムイだとは言いませんし、カエルのようにカムイ扱いされず、B積極的に嫌われてゐるものもあります。ただし、そういうカムイでも人間でもないものも含めて、すべてのものに魂があるというのが、アイヌ文化の基本的な考え方です。2

いずれにせよ、カムイとは動物や植物や火や水のことだと言つてしまふと、「自然」と訳してもよさそうな気もしますが、先ほど言つたように、家や舟、臼や杵、鍋や小刀といった人工物もまたカムイであり、人間のまわりにあつて、人間が生きるために何らかの関わりを持っているすべてのものを指しますので、「自然」ではやはりぴったりきません。

むしろ「環境」と言つてしまつたほうがよさそうです。〔3〕

アイヌとは「人間」を指す言葉ですが、アイヌの伝統的な考え方の根幹にあるのは、②アイヌとカムイが良い関係を結ぶことによつて、お互に幸福な生活が保たれるということです。カムイを「環境」に置き換えると、「人間」が自分をとりまく「環境」と良い関係を保てれば世界がうまくいくということで、私たちにとつても大変納得のいく考え方ですね。信仰とか民族の世界観とかといふ目で見てしまうと、私たちとは無関係の話のように思えてしまうかもしれませんが、その基盤にあるのは、人々がどのようにして豊かで平穏な生活を保つかということですから、どの社会の話でもそう大きく違うことではないのです。〔4〕

アイヌは世界を理解するのに、いわばあらゆるものを「擬人化」してきました。カムイは私たちの目からはクマやらカラスやら炎やらに見えていましたが、それは彼らが人間の目に見えるようにまとつてゐる「衣装」だと考えられています。カムイたちは本来はカムイモシリ（＝カムイの世界）というところにおり、そこでは人間と同じ姿をして暮らしている、すなわち、クマもカラスも火も木も草も、みな人間の姿で食事をしたり結婚したり、彫刻したり裁縫したりして生活しているということになつています。〔5〕

ただし、それは靈魂の状態であり、人間の目には見えません。彼らが人間と関わりを持つためにアイヌモシリ（＝人間の世界）にやつてくる時には、人間の目に見えるように衣装を身につけてきます。③火のカムイであれば、六枚の赤い着物を帶で結び、さらに六枚の赤い着物を上に羽織つてやつてきます。私たちの目に見えるのはその一二枚の赤い着物であり、それが炎だということになるのです。〔6〕

彼らの身につけてくるものはまた、④人間へのお土産でもあります。火は人間に光と熱をもたらしますし、クマのカムイは毛皮と肉を、樹木のカムイは樹皮や木材を、山菜のカムイたちはもちろん食糧や薬を人間たちにお土産として持つてくれます。それらは人間が自分の手で作り出すことは不可能であり、カムイたちに持つてきてもらわなければ手に入りません。人間はそのお返しとして、カムイに感謝の言葉を述べ、（注2）イナウなどといった、人間の手を経なければこの世に存在しないものをカムイに贈り物として捧げるのです。〔7〕

いわば人間とカムイはお互いが必要とするパートナーなのだとということです。人間は何もない空間で生きることはできず、環境からの恩恵によつて生きています。そしてそれを当たり前のものと思わず、その恩恵を感謝して受け取ることによつて、環境を悪化させないように配慮することができるようになります。たとえば、獲つた獲物の肉を

食べ残すようなことは、強くいましめられていきました。それはカムイからもらったお土産を粗末にするということであり、それを知ったカムイに「そんなことをするのなら、もうあそこの家に土産を持つていくものか」と思われると、動物たちが姿を見せなくなり、飢饉という最も恐ろしい災厄がもたらされるからです。だから、必要以上に動物を殺すことや、樹木や山菜を探りつくすようなことは、自然に控えられたわけです。[8]

カント オロワ ヤク サク ノアランケプ シネプ 力 イサム（天から⑤役目なしに降ろされた物はひとつもない）

これはアイヌ民族出身で初めて国會議員を。ツトめた萱野 茂さん（一九二六年～二〇〇六年）の愛用していた言葉で、アイヌの世界観をよく表しています。先ほど述べたようにカムイが靈魂の姿で暮らしているカムイモシリは、空を飛ぶ鳥や雷などのカムイでは天空にあり、魚やシヤチなどの海に住むものでは水平線のかなたにあり、クマやキツネなどの山に暮らすものでは人間が足を踏み入れないような山奥にあると考えられています。そして、（注3）「ゴールデンカムイ」の取材協力者であり、（注4）樺太アイヌのアイヌ文化研究者である北原モコツトウナシさんによると、山や海のカムイもそこからさらに天界に行くことになっているのだそうです。つまりすべてのカムイは、おおもとをたどればカント（＝天）からやつてくるのだということです。[9]

そして、「役目なしに降ろされた物はない」というのは、カムイというものはすべて理由があつてわざわざこの世界にやつてきているのだという考え方です。そのひとつは先ほど述べたように、お互いが自分の持っているものを与えて、お返しに相手から自分では作れないものを手に入れるという、いわば「交易」のためということであり、もうひとつはカムイモシリから何らかの使命を帶びてやつてくるということです。

たとえば火のカムイは人間に光と熱を与えるように調理してくれます。また家の真ん中にある囲炉裏に座つて、家の守り神とともにそれぞれの家を守つており、クマなどのカムイがその家を訪れた時（つまり獲物として狩られて、その頭が家の中に運び込まれた時）には、その家のホスト役として客のカムイの応対をして、話を交わします。さらに人間がカムイたちに祈りを捧げる時には、その仲立ちをして、「これから人間がこれこれこういうお願いをするから聞いてやつてくれ」というような、いわば根回しをしてくれます。そのようないろいろな役目を果たすために、火のカムイは、新しく家が建てられる時にカムイの世界からその家にドマネがれるのです。

あるいはシマフクロウという鳥は、コタンコロカムイ（＝村を守るカムイ）と呼ばれ、村に厄災が及ばないように監視する役目を負つて、天界から村の近くの森に降り、その大きな目で夜中じゅう村を見守つているだとされます。知らし

幸恵編訳『アイヌ神譜集』には、人間の村にシカもサケもやつてこなくなつて飢饉になつてゐるわけを、天界に問い合わせます。ただそうとするシマフクロウの話が載つています。ところが、本人は年老いて談判しにいくことができません。

そこでシマフクロウは代わりに若者を使いにやろうと考へるのですが、最初に名乗り出たカラスも、次に来たカケスも、用件を聞いているうちに途中で寝てしまいます。ようやく最後にやつてきたカッケン（＝カワガラス）の若者が、用件を聞き終えて天界に飛び立ち、見事その原因を e カイメイして、またシカやサケが人間の村にやつてくるようになりました。そこで、シマフクロウは安心してカワガラスに後を任せ、自分は天界のカムイモシリに帰つていったという話です。

このように、シマフクロウをはじめいろいろなカムイたちが、人間の世界に災いが及ばないよう気を配り、他のカムイとの仲立ちをして問題を解決してくれたり、あるいは危険が迫つていてることを人間に知らせて避難させたりという物語が、数多く伝わっています。

（中川裕『アイヌ文化で読み解く「ゴールデンカムイ』』より　一部改めたところがある）

（注1）アイヌ：：東北地方以北を中心にはじめいろいろなカムイたちが、人間の世界に災いが及ばないよう気を配り、他のカムイとの仲立ちをして問題を解決してくれたり、あるいは危険が迫つていてることを人間に知らせて避難させたりという物語が、数多く伝わっています。

（注2）イナウ：：アイヌの木製祭具のひとつ。イナウは、カムイモシリには存在しないものとされる。

（注3）ゴールデンカムイ：：明治末期の北海道を舞台とした、日本の青年漫画。

（注4）樺太アイヌ：：樺太（北海道の北に位置する島）に居住するアイヌ。

（一）波線部 a ↗ e のカタカナを漢字に直しなさい。

a

フカケツ

b

レイゾウコ

c

ツト（めた）

d

マネ（かれる）

e

カイメイ

(二) 二重傍線部 A 「精神」、B 「積極的」とあるが、これらの言葉の対義語を、次の語群からそれぞれ選び、漢字に直して答えなさい。

- A 「精神」 ⇄ ( )  
B 「積極的」 ⇄ ( )

【語群】

カンショウテキ コタイ ショウキヨクテキ セイカク ヒカンテキ ブツシツ

(三) 傍線部①「カムイ」とあるが、これについて以下の問いに答えなさい。

- i 筆者は「カムイ」の訳語をどのように考えているか。最も適切な語を、本文中から抜き出して答えなさい。  
ii 「カムイ」とはどのようなものか、その説明として、最も適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 人間をとりまいていいる、すべてのもの。

イ 祈りを捧げる神様や、そのお使いのような存在。

ウ 人の手が加わっておらず、魂が存在しているもの。

エ 人の周りにあって、生活に役立つもの。

(四) 傍線部②「アイヌとカムイが良い関係を結ぶ」とあるが、そうするために「アイヌ」は具体的にどのようなことをしているか。その説明として、適切なものを次のア～オの中から二つ選び、記号で答えなさい。

ア あらゆるもの擬人化して、カムイを理解しようとする。

イ カムイからの恩恵を当然と思わず、感謝して受け取るようにする。

ウ 獲った獲物の肉を食べ残したり、植物を過剰に採つたりしない。

エ 靈魂の状態のカムイのために、カムイに応じた衣装をお供えする。

オ 信仰対象や民族がちがう者にも、恩恵を与えて生活する。

(五) 傍線部③「火のカムイ」とあるが、これについて説明したものとして、適切でないものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 热を与える、食材を人間が食べられるようにしてくれる。  
イ 他のカムイとの仲立ちをして、問題を解決してくれる。  
ウ 危険が迫っていることを人間に知らせ、避難させてくれる。  
エ 家の守り神として、他のカムイの応対をしてくれる。

(六) 傍線部④「人間へのお土産」とあるが、これはどのような性質のものか。また、アイヌがその「お土産」を受け取ったあと、どうするかを説明した次の文の空欄(—X—・—Y—・—Z—)にあてはまる表現を、それぞれ次の条件に従つて書きなさい。

【条件】

- X：本文の言葉を使いながら、二十字以内で書きなさい。  
Y：本文の言葉を使いながら、五十字以内で書きなさい。  
Z：本文中から、二十二字で抜き出しなさい。

カムイから人間へのお土産とは、(—X—)で、アイヌはそれを受け取ると、(—Y—)。また、そうすることによつて、アイヌは(—Z—)ようになる。

(七) 傍線部⑤「役目」とあるが、それはどのような役目か。三十字以内で答えなさい。

(八) 本文の内容として、適切なものを次のア～オの中から二つ選び、記号で答えなさい。

ア アイヌとカムイは対等で、お互いが自らの世界で生きるために、なくてはならない存在である。

イ アイヌは、カムイを崇拜する存在として位置づけ、毎日祈りを捧げている。

ウ カムイの本来の姿は人間の姿であるが、それを人間が見ることは不可能である。

エ カムイモシリでのカムイたちは、靈魂の状態であり、人間とは全く異なった生活をしている。

オ 鳥は天空、クマは山奥というように、カムイモシリの場所はカムイごとに異なり、繋がりがない。

(九) 以下の文章が入る最も適切な箇所を①～⑨の中から一つ選び、数字で答えなさい。

これは簡単に現代社会の抱えている問題に行きつきますね。過度の森林伐採によって土砂災害が起つたり、大量の食糧が食べ残されて捨てられている一方で、多くの人が飢えていたりする現実。これはアイヌ的な考え方から言つたら、カムイとの関係がうまくいっていないということに他なりません。

商品説明資料（A社）

商品情報	価格	送料	お得情報
<b>マスク10枚セット</b> <b>ウィルスを防ぐ三層構造！</b> (商品レビュー★★☆☆☆ 2)  素材：ポリプロピレン ポリエステル 枚数：10枚 会社所在地：大阪府東大阪市	500円	<b>条件付き送料無料</b>  ※A社と同府内地域への発送は400円、他府県へは700円、北海道・沖縄・離島へは1000円の送料がかかりますが、ご注文いただいた商品の割引適用後の金額が10000円以上の場合はいずれの地域も送料無料です。	<b>2021年2月～4月までの限定おまけキャンペーン！</b>  ※「マスク10枚セット」を5つ購入するごとに、同じ商品を1つおまけでお付けします！ ※この商品限定のキャンペーンです。他の商品に同様の割引は適用されませんのでご注意ください。

商品説明資料（B社）

商品情報	価格	送料	お得情報
<b>マスク50枚セット</b> <b>高品質！即日配送！</b> (商品レビュー★★★★★ 5)  素材：ポリプロピレン ポリエステル 枚数：50枚 会社所在地：京都府京都市	2500円	<b>条件付き送料無料</b>  ※B社と同府内地域への発送は400円、他府県へは700円、北海道・沖縄・離島へは1000円の送料がかかりますが、ご注文いただいた商品の割引適用後の金額が10000円以上の場合はいずれの地域も送料無料です。	<b>期間限定2021年3月まで全商品10%OFFクーポン</b>  ※商品の合計金額の10%にあたる金額を値引きさせていただきます。 ※B社が提供する全ての商品に適用されます。この機会にお買い逃しなく！

商品説明資料（C社）

商品情報	価格	送料	お得情報
<b>マスク60枚セット</b> <b>大容量！まとめ買いに最適！</b> (商品レビュー★★★★☆ 4)  素材：ポリプロピレン ポリエステル 綿(耳ひも部分に使用) 枚数：60枚 会社所在地：兵庫県尼崎市	2500円	<b>全国一律600円</b>  ※「送料無料クーポン」をご使用の場合は全国どこでも無料で商品を配送致します。	<b>2種類から選べる！</b> <b>2021年12月までの超お得クーポン！</b>  ※「商品の合計金額10%値引きクーポン」と「送料無料クーポン」どちらかお好きな方を選び使用していただくことができます。 ※使用できるクーポンは一度の注文につき1つだけです。併用はできませんのでご注意ください。

③現在は 2021 年 3 月です。右の「商品説明資料」を読んで、後の問い合わせに答えなさい。

ただし、購入金額は商品の代金と送料を足したものだと考え、消費税の計算はしないものとする。

(一) あなたはマスクの通信販売をしている A 社、B 社、C 社の最新の「商品説明資料」を見ています。B 社でマスクセットを購入する時、何個以上買えば送料無料で商品を購入できるか。最も適切なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。  
ア 1 個以上 イ 2 個以上 ウ 3 個以上 エ 4 個以上 オ 5 個以上

(二) 大阪に住んでいる X さん、京都に住んでいる Y さんがマスクセットを A 社、B 社からそれぞれ一つずつ購入した場合、かかる送料の組み合わせとして最も適切なものを次のア～オの中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

- ア A 社 0 円 —— B 社 0 円  
イ A 社 400 円 —— B 社 400 円  
ウ A 社 400 円 —— B 社 700 円  
エ A 社 700 円 —— B 社 400 円  
オ A 社 700 円 —— B 社 700 円

(三) 沖縄に住んでいる Z さんがマスクを 100 枚購入する時、一番安く購入できる会社を A～C の記号で答えなさい。

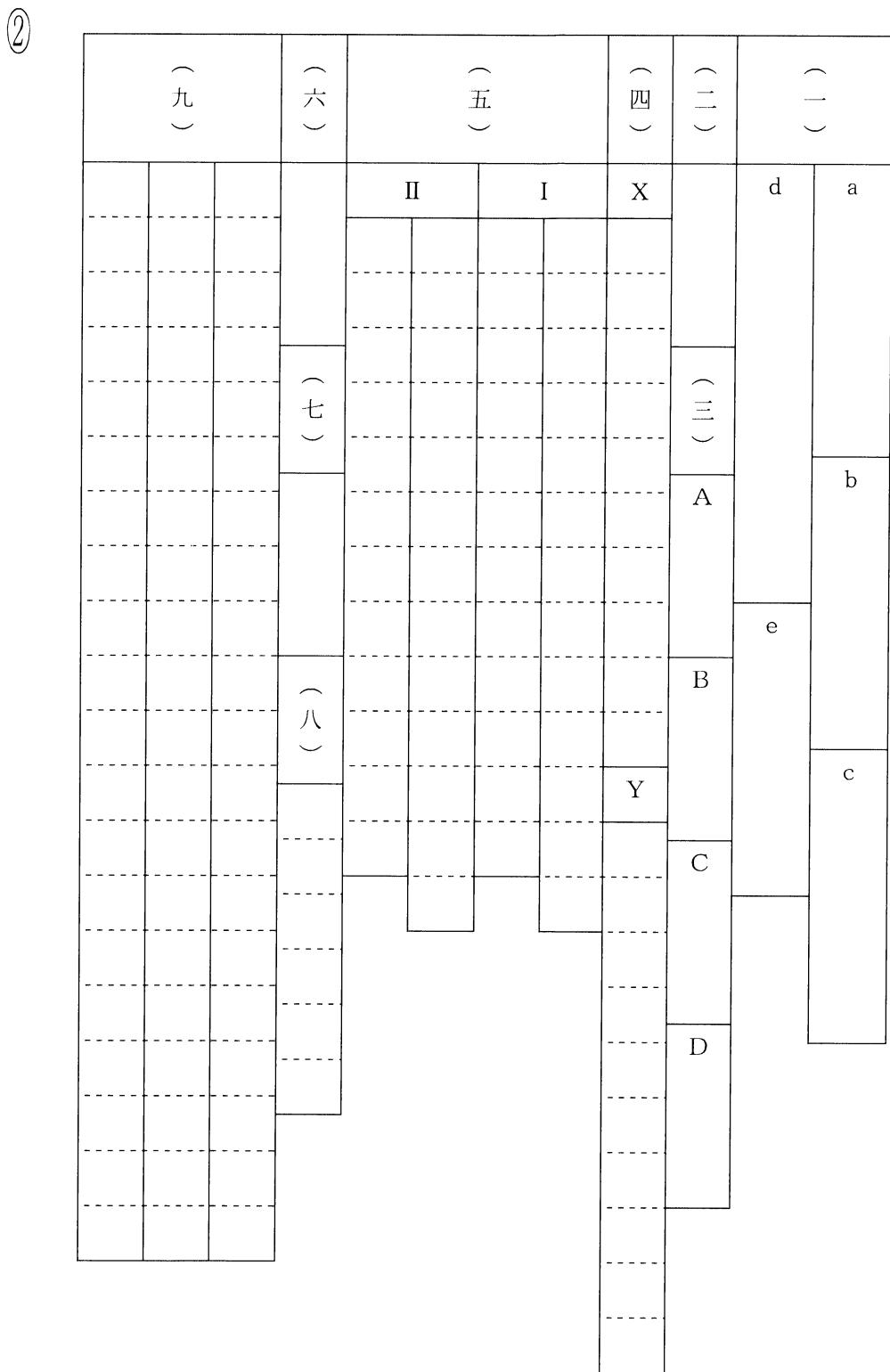
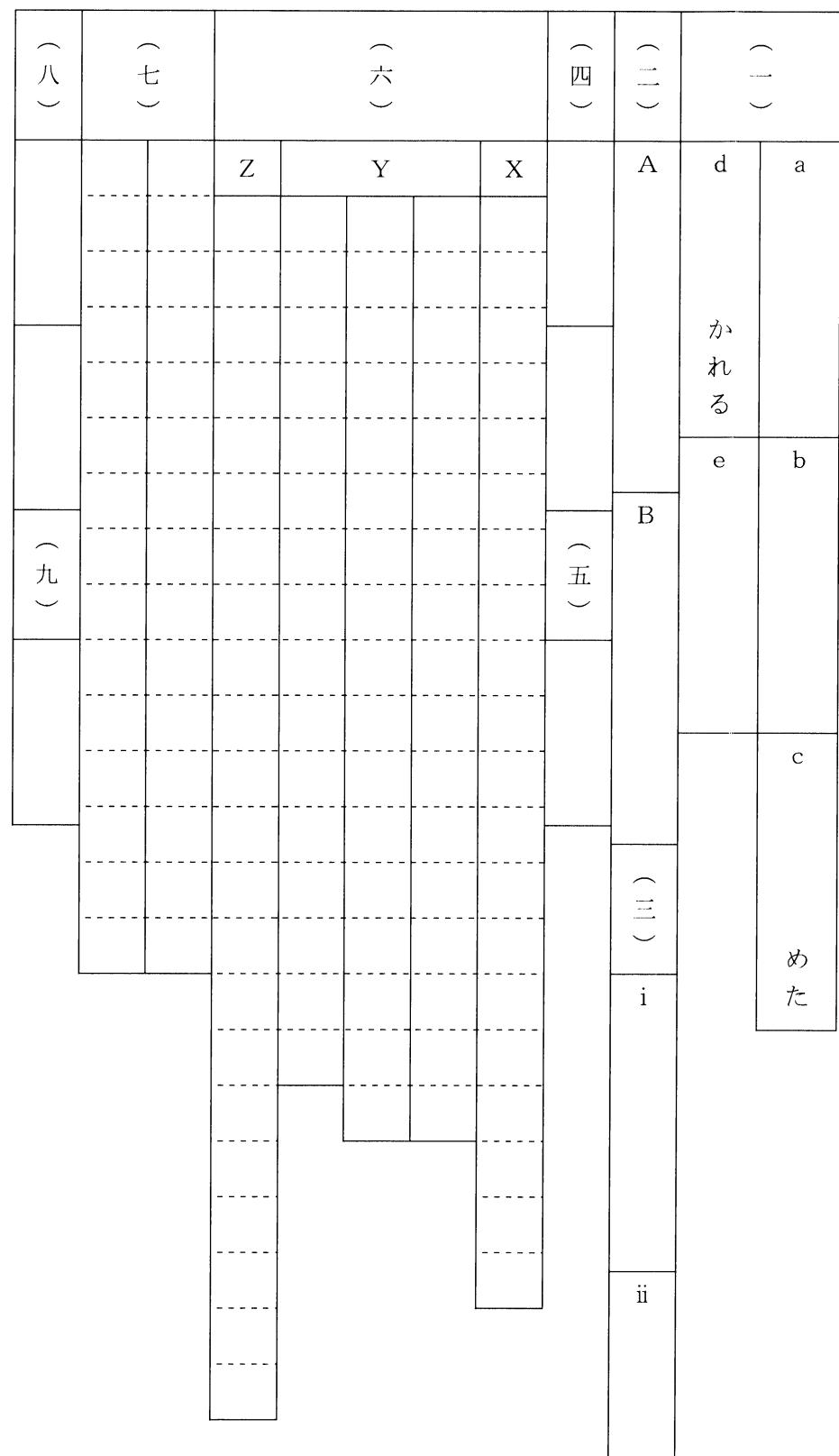
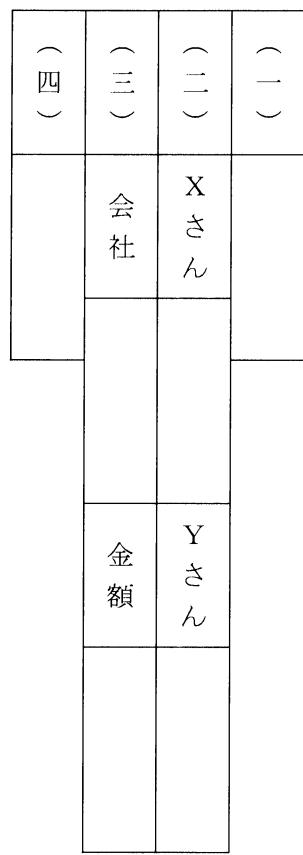
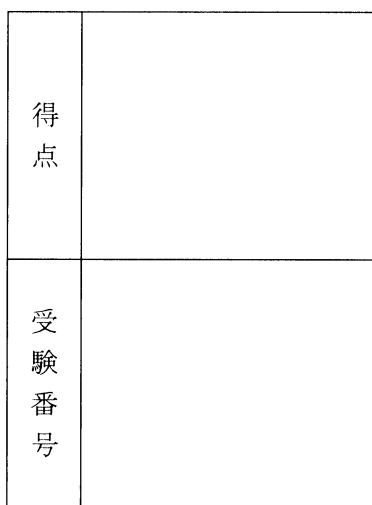
また、その際の購入金額として最も適切なものをア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 4500 円 イ 4900 円 ウ 5000 円 エ 5100 円 オ 5200 円

(四) 2021 年 10 月に Z さんが A 社で 300 枚マスクを注文する時、その購入金額として最も適切なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 12500 円 イ 12900 円 ウ 13500 円 エ 15000 円 オ 16000 円





令和3年度 1年点満点) 解答「前期A・E」

(1) 令和3年点)

中入国語

解説「前期A・E」

(2点×4) 3点×1)

(一) a 整然 b 異様 c 背後 d 応急処置 e 支障

(2点) (2点) (4点×2) (4点×2) (4点)

(2点×2) (完答)

(二) オ ウ ウ エ イ Y 堂々としていた(七字)

(三) オ ウ B エ C ア D イ

(四) X ウ Y 堂々としていた(七字)

(五) I 自信がなさそうな(八字)

II 自分のもの忘れが原因で火事を起こしてしまった(二十二字)

もの忘れをするようになつていてことを美緒に知られた(二十五字)

(六) ウ (7) ア 羊毛の仕事が

(八) 羊毛の仕事が

(九) 真剣に染めを教えてもらおうとしている美緒の心意気をうれしく思い、限られた時間の中で、多くのことを伝えたいと思っている。(五十九字)

(10) (10)

(2) (50点)

(一) a 不可欠 b 冷蔵庫 c 務めた d 招かれる e 解明

(二) A 物質 B 消極的

(三) (i) 環境 (ii) 工

(四) イ・ウ

(五) ウ

(六) X 人間が自分の手で作り出せないもの／人の生活の役に立つもの

(7) Y カムイに感謝を述べたり、人間の手を経なければこの世に存在しない物を捧げたりして、お返しをする

Z 環境を悪化させないように配慮することができる

(8) 人間との交易や、カムイモシリからの使命を果たすという役目。

(9) (10) (10)

(11) (11) (11)

(12) (12) (12)

(13) (13) (13)

(14) (14) (14)

(四) エ C ウ

(三) (二) X さん

(一) オ ウ

(3) (20点)

Yさんエ

(四) エ C ウ

(三) (二) X さん

(一) オ ウ

(3) (20点)

(4点)

(3点×2)

(3点×2)

(4点)